



◇講演の概略

- グローバル社会の中で生きる私たち。大切なのは人権力。人間力。
- ふるさとを誇れる人間になることが大切。ふるさとの文化を知ることが大切。
- 徳島では古くから門付芸として「箱まわし（人形芝居）」を行い、たくさんの家に福を運んできた。しかし、その誇れる文化が衰退していった。その原因のひとつに部落差別があった。この芸能を担ってきた人の多くが被差別部落の人々だった。芸人たちは、これを続けることにより子や孫が差別を受けることを恐れて、人形を押し入れの奥にしまい込んだり、川に流したりして、廃業してしまった。
- 今、この文化を消してしまわないよう、明るい展望と生きる勇気を運び続け、次世代へつないでいこう、差別をなくしていこうと取り組んでいる。

えびす様が二条米を釣り上げています！！



2015年度二条・美濃地区地域交流研修会をおこないました

講師：辻本一英さん・中内正子さん・南公代さん
 演題：「人権文化を考えるーばあちゃんからのメッセージ」
 会場：二条公民館（8月4日開催）

◇参加者の感想より

- ◇辻本さんのお話がよかったです。人形をどうやって動かしているんだろうと、とても興味がわきました。劇をする人と見ている人が一体となっていて、終始笑顔でした。
- ◇軽快で学術の深いトークと、きれいな阿波木偶の箱まわしで、あっという間の1時間半でした。「文化は命を育む」「戦争と差別は文化の対極にある」、こういった言葉が重みをもって伝わってきました。差別解消に向けて自分は何かしているのか？と、恥ずかしさを感じながら聴かせてもらいました。
- ◇人形に命がふき込まれる…、目の前で繰り広げられる箱廻しにそう思いました。命を育むということは、今日のようなことなのかな…と感じました。元気のである、明日への活力をいただいた研修会でした。
- ◇とても楽しく、感じながら学べる研修会でした。地域の人や子どもたち、保護者が一緒に楽しみながら学び考えあうことができた場であったと思います。
- ◇子どもたちはいずれ二条を出て行くと思いますが、立派な大人になり、ふるさと二条を誇りに思えるように、私たちもよりよい二条にしていかなければと思いました。たくさんの福をいただいて、ありがとうございました。



多くのみなさまの参加、ありがとうございました。
 芝原生活文化研究所・阿波木偶箱廻し保存会のホームページものぞいてみてください。

<http://www.pikara.ne.jp/ebisu/>

発行日 2015年8月20日 合同研修会事務局発行（西南中学校）

三世代交流事業は公益社団法人JKAの「地域ふれあい交流活動補助事業」の支援を受けて実施しています。

